

## 2016年度 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2017年6月12日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

### <投資家・アナリスト向け>

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2016年度決算について、  
ご説明させていただきます。

## 2016年度 業績 (2016年4月～2017年3月)

(単位：億円)

	修正 2015年度	2016年度	対修正 2015年度	為替影響	為替影響除く
売上高	24,604 100.0%	23,222 100.0%	-1,382 -5.6%	-1,527	145 +0.6%
営業利益	1,740 7.1%	1,723 7.4%	-17 -1.0%	-336	319 +18.3%
税金等調整前 当期純利益	1,756 7.1%	1,948 8.4%	192 10.9%	-249	441 +25.1%
当社株主帰属 当期純利益	1,114 4.5%	1,315 5.7%	201 18.0%	-172	373 +33.4%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	239.37円	296.27円	56.90円	<その他増減要因(対前年度)> 営業利益 原材料：+78億円	
ROE	5.3%	6.5%	1.2%		
為替 : 米ドル	120円	108円	12円高		
: ユーロ	133円	119円	14円高		

※2015年度決算は監査中です。2015年度の決算修正は、参考資料スライド30-32をご参照下さい。

まずはじめに、本決算説明における2015年度決算の業績は、第三者委員会の調査結果を反映した修正に加えて、売上計上基準見直し等による修正を入れた金額にてご提示しております。2015年度の決算修正につきましては、参考資料スライド30～32をご参照下さい。開示済みの過年度の財務諸表は修正が入る予定ですが、現在再監査手続き中であるため、監査終了次第速やかに公表いたします。

それでは、2016年度の業績からご説明いたします。

売上は2兆3,222億円となりました。為替の円高による1,527億円のマイナス影響などにより前年比5.6%減となりましたが、為替影響を除いたオペレーションベースでは増収となりました。為替影響を強く受ける状況下でも、電子材料事業や電子映像事業などが売上を伸ばしました。

営業利益は1,723億円となりました。為替の円高による336億円のマイナス影響がある中で前年比1.0%減の微減にとどまり、為替影響を除いたオペレーションベースでは前年比18.3%の大幅増益となりました。

売上、営業利益ともにオペレーションベースでは確実な増収増益を達成しています。

税金等調整前当期純利益は、営業外収益及び費用で、保有株式の構成を見直して投資有価証券売却益を計上したことなどにより、前年比10.9%増の1,948億円、当社株主帰属当期純利益は、前年比18.0%増の過去最高益となる1,315億円となりました。

ROEは6.5%となりました。

なお、2016年度業績への、富士ゼロックス海外販売子会社の会計処理問題に関わる金額影響は軽微です。

2016年度 決算 概要					FUJIFILM		
セグメント別 連結売上高／営業利益							
(単位：億円)							
売上高	通期		対前年度		為替影響	為替影響除く	
	修正 2015年度	2016年度					
イメージング	3,529	3,418	-111	(-3.2%)	-320	209	(+5.9%)
インフォメーション	9,421	8,995	-426	(-4.5%)	-635	209	(+2.2%)
ドキュメント	11,654	10,809	-845	(-7.2%)	-572	-273	(-2.3%)
合計	24,604	23,222	-1,382	(-5.6%)	-1,527	145	(+0.6%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)							
営業利益	通期		対前年度		為替影響	為替影響除く	
	修正 2015年度	2016年度					
イメージング	320	368	48	(+15.1%)	-103	151	(+47.4%)
インフォメーション	907	830	-77	(-8.5%)	-182	105	(+11.5%)
ドキュメント	813	827	14	(+1.7%)	-53	67	(+8.2%)
全社/連結調整	-300	-302	-2		2	-4	
合計	1,740	1,723	-17	(-1.0%)	-336	319	(+18.3%)

※2015年度決算は監査中です。 2

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、

前年比3.2%減の3,418億円、為替影響を除くと前年比5.9%の増収となりました。

営業利益は、前年比15.1%増の368億円、為替影響を除くと前年比47.4%の大幅増益となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、

前年比4.5%減の8,995億円、為替影響を除くと前年比2.2%の増収となりました。

営業利益は、前年比8.5%減の830億円、為替影響を除くと前年比11.5%の増益となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、

前年比7.2%減の1兆809億円、為替影響を除くと前年比2.3%の減収となりました。

営業利益は前年比1.7%増の827億円、為替影響を除くと前年比8.2%の増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

(単位：億円)				
売上高	対前年度		営業利益	前年比
3,418	-111	(-3.2%)	368	48 (+15.1%)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。「WALL DECOR」など付加価値プリントビジネスも堅調。
- ・ 電子映像では、「FUJIFILM X-T2」「FUJIFILM X-T20」を中心にミラーレスデジタルカメラ及び交換レンズが好調。さらに、2月発売の大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」の販売も好調で、売上が増加
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売縮小などにより売上が減少。高付加価値製品中心のプロダクトミックスへのシフトを進める。

為替の円高によるマイナス影響などにより減収となったものの  
“チェキ”とデジタルカメラが好調で増益  
オペレーションベースでは増収、大幅増益

※2015年度決算は監査中です。

3

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移しました。また、日本では1月に発売を開始した「WALL DECOR(ウォールデコ)」などの付加価値プリントビジネスも堅調に推移しました。

電子映像では、「FUJIFILM X-T2」や「FUJIFILM X-T20」を中心としたXシリーズのミラーレスデジタルカメラおよび交換レンズが好調に推移したことに加え、2月に発売した大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」の販売好調により、売上が増加しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売縮小などにより売上が減少しました。3月に発売したシネマカメラ用レンズなどの高付加価値レンズ製品中心のプロダクトミックスに転換し、収益性を向上させていきます。

イメージング ソリューション部門は、為替の円高によるマイナス影響などにより減収となったものの、インスタントシステムやデジタルカメラの高級機種の高級機種種の拡販及び各事業の収益性の改善により増益となりました。また、オペレーションベースでは増収、大幅増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度		営業利益	前年比	
	増減	増減率		増減	増減率
8,995	-426	(-4.5%)	830	-77	(-8.5%)

- ・ メディカルシステムでは、成長分野である体外診断(IVD)システム、内視鏡などの販売が好調に推移。医薬品は低分子医薬品において後発医薬品の影響を受けたことなどにより売上は減少したが、バイオ医薬品開発製造受託が好調に推移。3月にバイオCDMO(Contract Development & Manufacturing Organization)事業部を新設。再生医療は事業拡大に向けた活動を推進。ライフサイエンスは売上増加。
- ・ フラットパネルディスプレイ材料は、「WVフィルム」やVA用フィルムなどの販売が堅調に推移し売上が増加。
- ・ 産業機材では、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は先端フォトリソ周辺材料の販売が好調に推移し、売上が増加。
- ・ 記録メディアは、データストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加。
- ・ グラフィックシステムでは、デジタル印刷機器や産業用インクジェットヘッドなどの販売が伸長。1月にインクジェット事業部を新設。

為替の円高によるマイナス影響などにより減収減益  
オペレーションベースでは増収増益

※2015年度決算は監査中です。

4

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、成長分野である体外診断(IVD)システム、内視鏡などの販売が好調に推移しました。

医薬品は、低分子医薬品において後発医薬品の影響を受けたことなどにより、売上は減少したものの、バイオ医薬品開発製造受託が好調に推移しました。この高い成長が見込めるバイオ医薬品を中心とする医薬品のプロセス開発・製造受託の事業拡大を図るため、3月に「バイオCDMO事業部」を新設しました。

再生医療では、CDI社がiPS細胞の実用化に非常に重要な製造法特許を、米国やオーストラリアに続き日本でも取得するなど、事業拡大に向けた活動を推進しています。

ライフサイエンスでは、高機能化粧水「アスタリフト モイストローション」や美白化粧水「アスタリフト ホワイト ブライトローション」などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

フラットパネルディスプレイ材料は、「WVフィルム」やVA用フィルムなどの販売が堅調に推移し売上が増加しました。

産業機材では、「エクスクリア」の販売が好調に推移しました。

電子材料では、半導体の微細化が進み半導体材料に求められる品質が高まる中、当社の先端フォトリソ周辺材料などの販売が大手顧客を中心に伸長し、売上が増加しました。

記録メディアは、独自技術に基づく「BaFe（バリウムフェライト）磁性体」を使用したデータストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移、また、データアーカイブサービスの拡販により、売上が増加しました。

グラフィックシステムでは、デジタル印刷機器や産業用インクジェットヘッドなどの販売が伸長しました。また、1月にインクジェット事業部を新設し、商業印刷に加えて、産業用途や3Dプリンティングなどの成長分野でビジネスを創出し、売上拡大を目指します。

インフォメーション ソリューション部門は、為替の円高によるマイナス影響などにより、減収減益となりましたが、フラットパネルディスプレイ材料や電子材料などで売上を伸ばし、オペレーションベースでは増収増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
10,809	-845 (-7.2%)	827	14 (+1.7%)

(単位：億円)

- ・ オフィスプロダクトは、新製品の各種クラウドサービスと連携するA3フルカラー複合機「ApeosPort- VI C/DocuCentre- VI C」シリーズの販売が好調に推移。アジア・オセアニア地域ではモノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加。
- ・ オフィスプリンターは、主に欧米向け輸出で売上減少。
- ・ プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシングシステムなどの販売が堅調。
- ・ グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域ともに販売が堅調。

アジアローカル通貨安によるマイナス影響や  
欧米向け輸出の減少などにより減収となったものの  
経費削減及び原価改善等により増益

※2015年度決算は監査中です。 5

ドキュメント ソリューション部門については、

オフィスプロダクトは、新製品の各種クラウドサービスと連携するA3フルカラー複合機「ApeosPort- VI C (アペオスポート シックス シー) /DocuCentre- VI C (ドキュセンター シックス シー)」シリーズの販売が好調に推移しました。地域別では、国内及び欧米向け輸出の販売台数が減少しましたが、アジア・オセアニア地域では、モノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加しました。

オフィスプリンター事業は、主に欧米向け輸出で売上が減少しました。

プロダクションサービスは、機器の販売台数は減少しましたが、カラー・オンデマンド・パブリッシングシステムなどの販売は堅調に推移しました。

グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域ともに販売は堅調に推移しました。

ドキュメントソリューション部門は、アジアローカル通貨安によるマイナス影響や欧米向け輸出の売上の減少などにより減収となったものの、経費削減及び原価改善等により増益となりました。

引き続き、グローバルサービス等の成長領域の拡大や、アジア・オセアニア地域でのさらなる拡販を進めるとともに、経費削減及び原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

## 連結貸借対照表

				(単位：億円)			
	修正 15年度末	16年度末	対修正 15年度末		修正 15年度末	16年度末	対修正 15年度末
現金 及び現金同等物	6,009	8,760	2,751	長短社債 及び借入金	3,657	5,588	1,931
受取債権	6,436	6,358	-78	支払債務	2,571	2,579	8
棚卸資産	3,492	3,392	-100	その他流動 固定負債	4,572	4,484	-88
その他流動資産	1,726	1,838	112	負債計	10,800	12,651	1,851
流動資産計	17,663	20,348	2,685	株主資本計	20,148	20,436	288
有形固定資産	5,326	5,206	-120	非支配持分	2,172	2,245	73
営業権	5,069	4,998	-71	純資産計	22,320	22,681	361
投資有価証券 その他資産	5,062	4,780	-282	負債・純資産 合計	33,120	35,332	2,212
固定資産計	15,457	14,984	-473	(単位：円)			
資産合計	33,120	35,332	2,212	期末日 為替レート	15年度末	16年度末	対15年度末
				米ドル	113	112	1円高
				ユーロ	128	120	8円高

※修正2015年度末残高には、富士ゼロックス海外販売子会社の不適切会計の修正と、その他の修正項目が反映されています。

6

次に、バランスシートについてご説明します。

2017年3月末時点の資産合計は、

現金及び現金同等物の増加により、2016年3月末時点と比べ、2,212億円増の3兆5,332億円となりました。

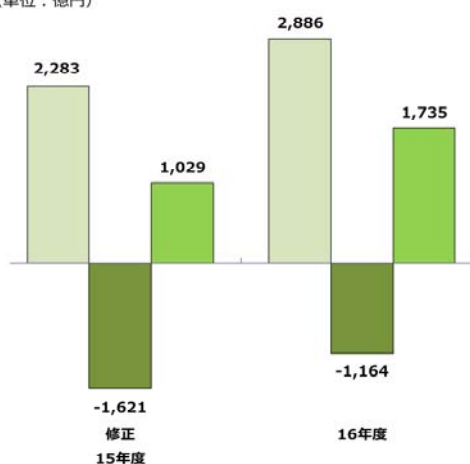
負債は1,851億円増の1兆2,651億円、株主資本は288億円増の2兆436億円となりました。2016年11月に、500億円の自社株買いを完了しております。

流動比率は、8.1ポイント増の299.2%、負債比率は8.3ポイント増の61.9%、株主資本比率は3.0ポイント減の57.8%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

## キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー  
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー  
■ フリー・キャッシュ・フロー（事業買収除く）

(単位：億円)



(単位：億円)

	修正 15年度	16年度
当期純利益	1,269	1,472
減価償却費	1,250	1,176
受取債権の増(-)減(+)	-186	34
棚卸資産の増(-)減(+)	69	49
営業債務の増(+)-減(-)	17	57
その他	-136	98
営業活動によるC F	2,283	2,886
設備投資	-638	-746
ソフトウェアの購入	-223	-223
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	142	51
事業買収	-367	-13
その他	-535	-233
投資活動によるC F	-1,621	-1,164
フリー・キャッシュ・フロー	662	1,722
事業買収除くフリー・キャッシュ・フロー	1,029	1,735

※2015年度決算は監査中です。

7

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費および受取債権の減少などにより、2,886億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、1,164億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは1,722億円の収入となりました。

以上で、2016年度決算の説明とさせていただきます。



**2016年度 決算説明会**

**2017年度 業績予想**

**2017年6月12日**

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おさください。

続きまして、2017年度通期の連結業績予想についてご説明いたします。

## 2017年度 連結業績予想 (2017年6月12日時点)

(単位：億円)

	2016年度	2017年度	対前年度
売上高	23,222 100%	24,600 100%	1,378 +5.9%
営業利益	1,723 7.4%	1,850 7.5%	127 +7.4%
税金等調整前 当期純利益	1,948 8.4%	2,000 8.1%	52 +2.7%
当社株主帰属 当期純利益	1,315 5.7%	1,250 5.1%	-65 -4.9%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	296.27円	285.55円	-10.72円
ROE	6.5%	6.0%以上	-
為替 : 米ドル	108円	110円	2円安
: ユーロ	119円	120円	1円安
銀価格 (/kg)	59,000円	62,000円	-

\* 2017年度 営業利益 為替感応度 米ドル：8億円、ユーロ：8億円

9

2017年度の売上高は前年比5.9%増の2兆4,600億円を計画しております。

売上成長に加え、各事業での収益性の改善等により、  
営業利益は、前年比7.4%増の1,850億円、  
税金等調整前当期純利益は、前年比2.7%増の2,000億円、  
当社株主帰属当期純利益は、前年比4.9%減の1,250億円を計画しております。

ROEは、6.0%以上を目標とします。

なお、2017年度の円為替レートは対米ドルを110円、対ユーロを120円と想定しています。

## 2017年度 セグメント別業績予想 (2017年6月12日時点)

(単位: 億円)

売上高	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	3,418	3,500	82 (+2.4%)
ヘルスケア	3,840	4,350	510 (+13.3%)
インフォメーション	8,995	10,100	1,105 (+12.3%)
ドキュメント	10,809	11,000	191 (+1.8%)
合計	23,222	24,600	1,378 (+5.9%)

\*セグメント間取引消去後

営業利益	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	368	430	62 (+16.7%)
ヘルスケア	124	150	26 (+21.0%)
インフォメーション	830	880	50 (+6.1%)
ドキュメント	827	860	33 (+4.0%)
全社/連結調整	-302	-320	-18
合計	1,723	1,850	127 (+7.4%)

こちらはセグメント別の売上高、営業利益の業績予想です。

イメージングソリューションの売上高は、前年比2.4%増の3,500億円、  
営業利益は、前年比16.7%増の430億円を計画しております。

インフォメーションソリューションの売上高は前年比12.3%増の1兆100億円、  
営業利益は前年比6.1%増の880億円を計画しております。  
そのうち、ヘルスケア事業の売上高は前年比13.3%増の4,350億円、  
営業利益は前年比21.0%増の150億円になります。

ドキュメントソリューションの売上高は前年比1.8%増の1兆1000億円、  
営業利益は前年比4.0%増の860億円を計画しております。

## 2017年度業績予想のポイント

### イメージング ソリューション

フォトイメージングは、デジタルイメージング技術を搭載した新製品「instax SQUARE SQ10」の投入などインスタントシステムを中心として、収益を拡大。光学・電子映像は、成長領域であるミラーレスのハイエンド機や、4K対応放送用レンズなどの高付加価値製品に注力し収益性を向上。

### インフォメーション ソリューション

メディカルシステムは、医療IT・内視鏡・超音波・IVD(体外診断)の分野で売上を拡大。バイオCDMO事業は、開発・生産体制を強化。電子材料は、先端フォトリソ周辺材料などの販売を加速。グラフィックシステム、産業機材などの各事業においても収益性を向上。

### ドキュメント ソリューション

製品ラインアップ強化による販売量拡大、アジア・オセアニア地域での事業強化、サービス事業の拡大やソリューション強化による売上成長に加え、徹底したコスト低減・経費削減により収益性を改善。

11

2017年度業績予想におけるポイントを、セグメント別にご説明いたします。

イメージング ソリューション部門において、

フォトイメージングは、instaxシリーズ初のデジタルイメージング技術を搭載した「instax SQUARE SQ10」などの新製品の投入により、ユーザーの裾野を広げると共に、活用方法を提案することで、インスタントシステムを中心として更なる収益拡大を目指します。

光学・電子映像は、成長領域であるミラーレスのハイエンド機や、4K対応放送用レンズなどの付加価値の高い製品に注力することにより収益性を大幅に向上させます。

インフォメーション ソリューション部門においては、

メディカルシステムで、医療IT、内視鏡、超音波および体外診断の4つの分野で売上を拡大。2017年3月に設立したバイオCDMO事業は開発・生産体制を強化します。

電子材料事業では、先端フォトリソ周辺材料などの販売を加速します。

また、ヘルスケア、高機能材料の分野では、和光純薬工業との協業を進め更なる成長を目指します。

その他、グラフィックシステム、産業機材、インクジェット等においても引き続き収益性を向上させていきます。

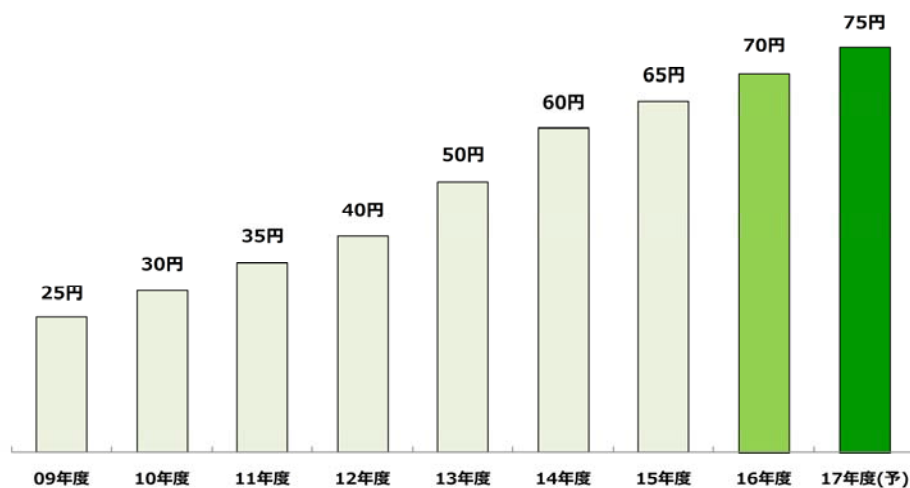
ドキュメント ソリューション部門では、

製品ラインアップの継続的強化によるワールドワイドでの販売ボリュームの拡大、アジア・オセアニア地域での事業の強化、グローバルサービス、プロダクションサービスのサービス事業の拡大、ソリューションの強化による売上成長を目指すとともに、徹底したコスト削減、経費削減を一層推進していくことで、収益性を改善させていきます。

## 株主還元

## ■ 配当金

2017年度の配当金は、8期連続増配となる対前年5円増配の75円/株を予定



12

最後に株主還元についてご説明いたします。

配当金について、

2016年度の年間配当金は、対前年5円の増配となる、1株当たり70円になります。

また、2017年度の年間配当金は、8期連続増配となる対前年5円増配の1株当たり75円を予定しております。

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

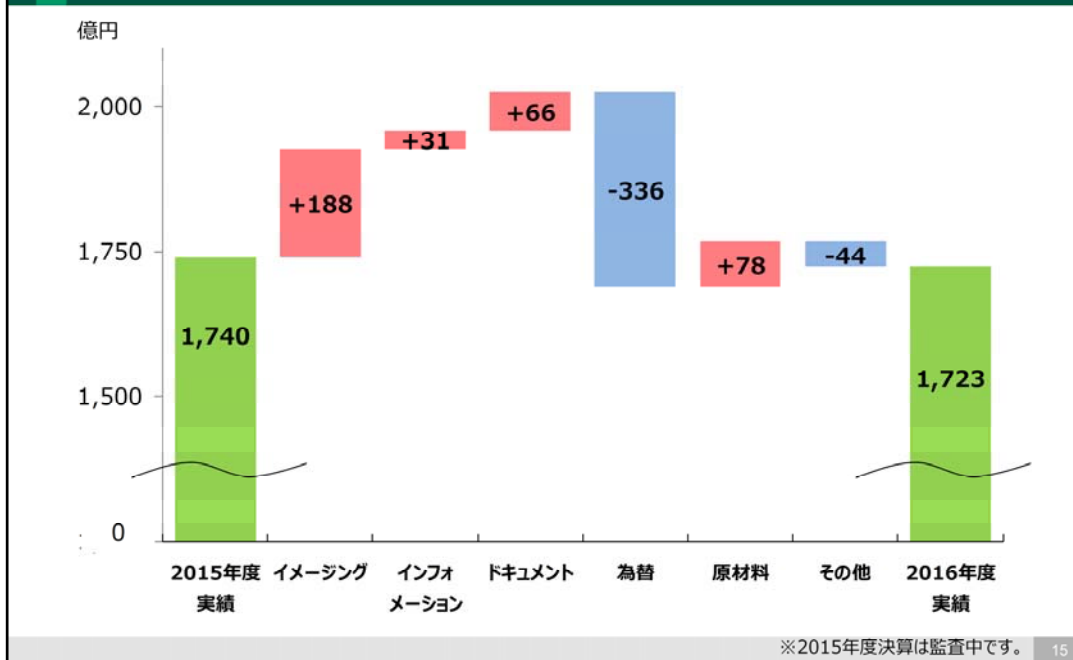


2016年度 決算説明会

---

参考資料

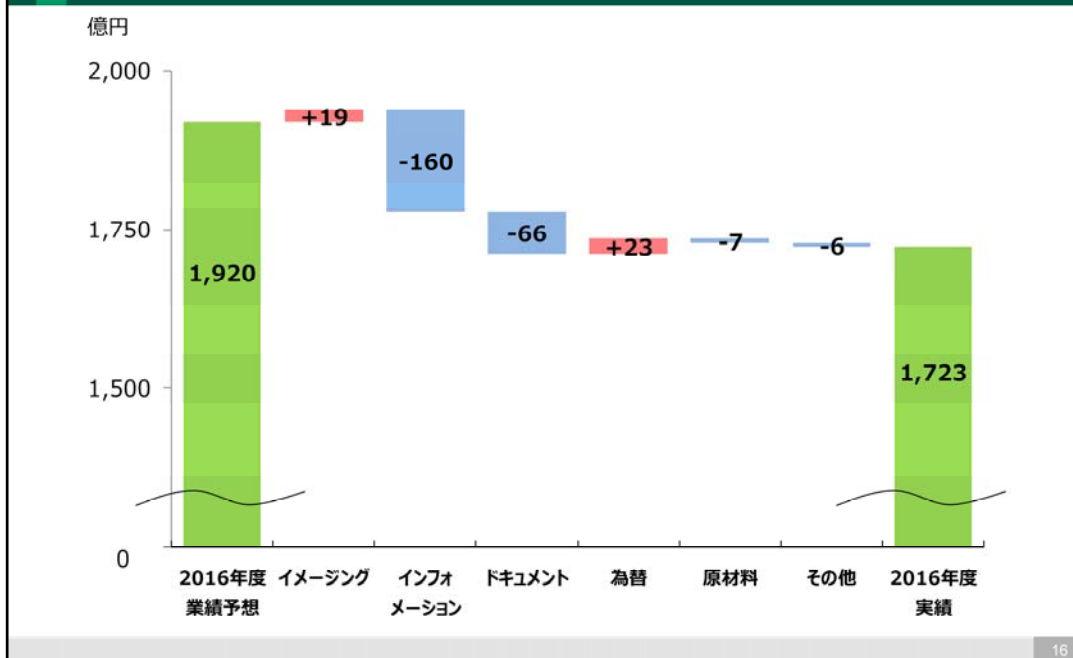
営業利益増減分析(通期 対前年実績)



<当スライドは配付資料です>



営業利益増減分析(通期 対業績予想)



<当スライドは配付資料です>

## 4Q/通期 業績

(単位：億円)

	修正 2015年度4Q	2016年度4Q	対修正 2015年度4Q	修正 2015年度	2016年度	対修正 2015年度
売上高	6,355 100.0%	6,299 100.0%	-56 -0.9%	24,604 100.0%	23,222 100.0%	-1,382 -5.6%
営業利益	487 7.7%	552 8.8%	65 +13.3%	1,740 7.1%	1,723 7.4%	-17 -1.0%
税金等調整前 当期純利益	426 6.7%	655 10.4%	229 +53.7%	1,756 7.1%	1,948 8.4%	192 10.9%
当社株主帰属 当期純利益	344 5.4%	523 8.3%	179 +51.7%	1,114 4.5%	1,315 5.7%	201 18.0%
為替 : 米ドル	115円	114円	1円高	120円	108円	12円高
: ユーロ	128円	121円	7円高	133円	119円	14円高

※2015年度、2016年度4Q決算は監査中です。 17

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 4Q/通期 業績

(単位：億円)

売上高	4Q			通期		
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	修正 2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	797	842	45 (+5.8%)	3,529	3,418	-111 (-3.2%)
インフォメーション	2,531	2,571	40 (+1.6%)	9,421	8,995	-426 (-4.5%)
ドキュメント	3,027	2,886	-141 (-4.7%)	11,654	10,809	-845 (-7.2%)
合計	6,355	6,299	-56 (-0.9%)	24,604	23,222	-1,382 (-5.6%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	修正 2015年度	2016年度	対前年度
イメージング	53 [6.6%]	84 [10.0%]	31 (+58.5%)	320 [9.1%]	368 [10.8%]	48 (+15.1%)
インフォメーション	320 [12.6%]	272 [10.6%]	-48 (-15.0%)	907 [9.6%]	830 [9.2%]	-77 (-8.5%)
ドキュメント	192 [6.3%]	273 [9.5%]	81 (+42.2%)	813 [7.0%]	827 [7.6%]	14 (+1.7%)
全社/連結調整	-78	-77	1	-300	-302	-2
合計	487 [7.7%]	552 [8.8%]	65 (+13.3%)	1,740 [7.1%]	1,723 [7.4%]	-17 (-1.0%)

※2015年度、2016年度4Q決算は監査中です。

18

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 4Q (3ヶ月) セグメント別 ハイライト

### ■ イメージング ソリューション

- フォトイメージングは、1月に発売を開始した「WALL DECOR(ウォールデコ)」などの付加価値プリントビジネスが堅調に推移。
- 電子映像は、2月に発売を開始した「FUJIFILM GFX 50S」「FUJIFILM X-100F」などの新製品及び交換レンズの販売が伸長。

### ■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは、主要分野であるIVD（体外診断）システムなどが好調に推移。医薬品は、低分子医薬品において後発医薬品の影響を受けたことなどにより売上が減少。3月にバイオCDMO事業部を新設。
- フラットパネルディスプレイ材料は、VA用フィルムの販売が増加。
- 産業機材は、「エクスクリア」の販売は伸長。電子材料は先端フォトリソ周辺材料などの販売が好調に推移。グラフィックシステムは、1月にインクジェット事業部を新設。

### ■ ドキュメント ソリューション

- アジアローカル通貨安によるマイナス影響、及び欧米向け輸出の減少などにより減収となるも、営業利益は新製品の販売が好調に推移したことなどにより増益となった。

<当スライドは配付資料です>

## 4Q/通期 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	537	538	1 (+0.2%)	1 (+0.2%)	2,495	2,368	-127 (-5.1%)	92 (+3.7%)
電子映像	162	211	49 (+30.2%)	57 (+35.1%)	640	698	58 (+9.2%)	128 (+20.1%)
光学デバイス	98	93	-5 (-5.1%)	-3 (-3.4%)	394	352	-42 (-10.8%)	-11 (-3.1%)
光学・電子映像	260	304	44 (+16.9%)	54 (+20.6%)	1,034	1,050	16 (+1.5%)	117 (+11.3%)
合計	797	842	45 (+5.8%)	55 (+6.8%)	3,529	3,418	-111 (-3.2%)	209 (+5.9%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く
イメージング	53 [6.6%]	84 [10.0%]	31 (+58.5%)	44 (+83.0%)	320 [9.1%]	368 [10.8%]	48 (+15.1%)	151 (+47.4%)

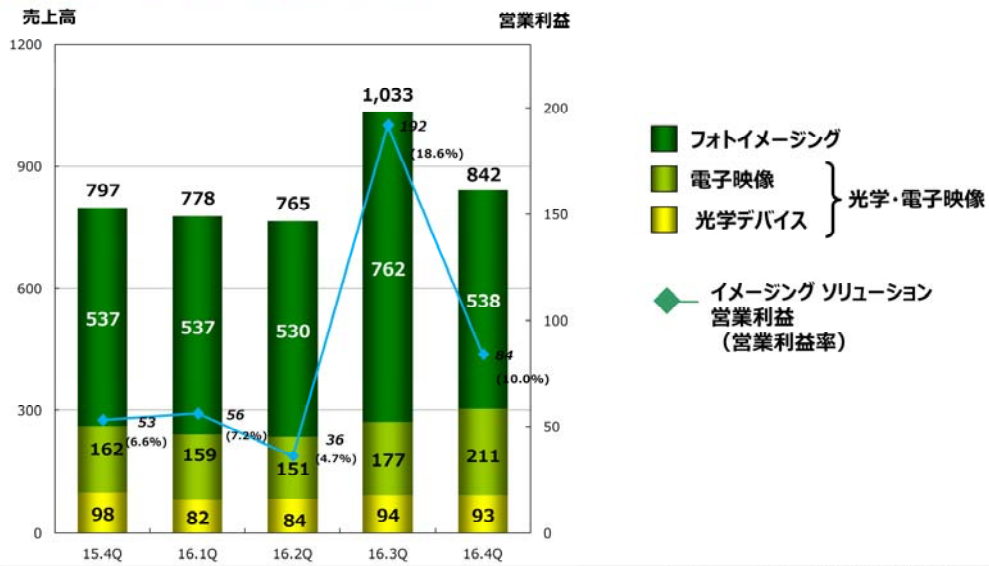
※2015年度、2016年度4Q決算は監査中です。

20

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ イメージング ソリューション (単位: 億円)



※2015年度、2016年度四半期決算は監査中です。 21

<当スライドは配付資料です>

## 4Q/通期 業績

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスクア	1,176	1,234	58 (+4.9%)	92 (+7.8%)	4,014	3,840	-174 (-4.3%)	93 (+2.3%)
フラットパネル ディスプレイ材料	245	220	-25 (-10.2%)	-25 (-10.2%)	959	978	19 (+1.9%)	19 (+1.9%)
産業機材/電子材料	268	305	37 (+13.8%)	41 (+15.3%)	1,061	1,111	50 (+4.6%)	148 (+13.9%)
高機能材料	513	525	12 (+2.3%)	16 (+3.1%)	2,020	2,089	69 (+3.3%)	167 (+8.2%)
記録メディア	126	131	5 (+4.0%)	7 (+5.8%)	466	476	10 (+2.1%)	58 (+12.5%)
グラフィックシステム	696	676	-20 (-2.9%)	-5 (-0.7%)	2,850	2,558	-292 (-10.2%)	-70 (-2.5%)
その他	20	5	-15 (-75.0%)	-15 (-75.0%)	71	32	-39 (-54.9%)	-39 (-54.9%)
合計	2,531	2,571	40 (+1.6%)	95 (+3.8%)	9,421	8,995	-426 (-4.5%)	209 (+2.2%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 【営業利益率】	4Q				通期			
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く
インフォメーション	320 [12.6%]	272 [10.6%]	-48 (-15.0%)	-16 (-5.0%)	907 [9.6%]	830 [9.2%]	-77 (-8.5%)	105 (+11.5%)

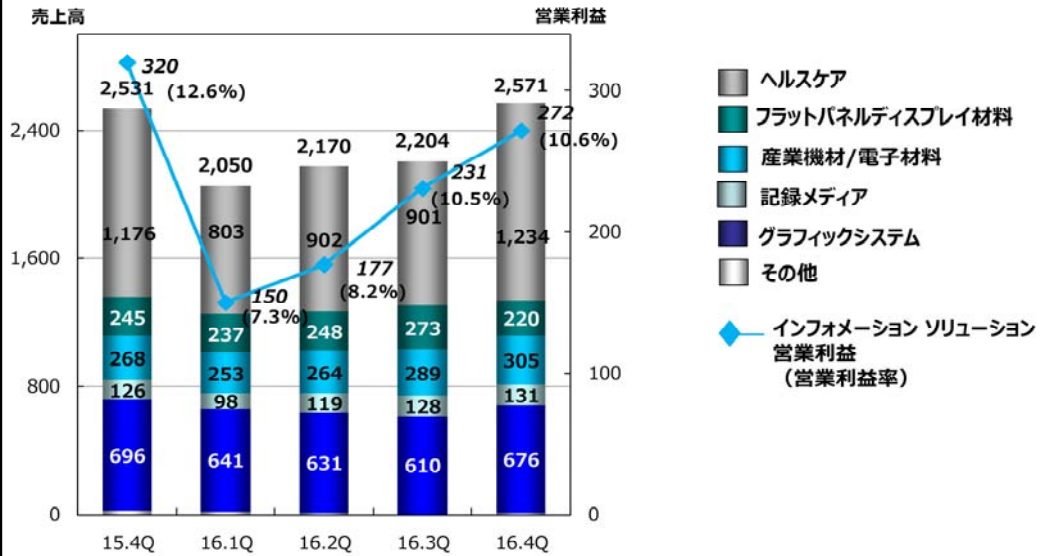
※2015年度、2016年度4Q決算は監査中です。

22

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ インフォメーション ソリューション (単位：億円)



※2015年度、2016年度四半期決算は監査中です。 23

<当スライドは配付資料です>



## 4Q/通期 業績

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く
オフィスプロダクト	1,271	1,231	-40 (-3.2%)	-15 (-1.2%)	5,026	4,770	-256 (-5.1%)	-35 (-0.7%)
オフィスプリンター	495	430	-65 (-13.2%)	-40 (-8.1%)	1,920	1,632	-288 (-15.0%)	-157 (-8.2%)
プロダクションサービス	405	378	-27 (-6.9%)	-19 (-4.9%)	1,559	1,396	-163 (-10.5%)	-83 (-5.3%)
グローバルサービス	543	511	-32 (-5.8%)	-26 (-4.6%)	1,941	1,868	-73 (-3.8%)	11 (+0.6%)
その他	313	336	23 (+7.4%)	26	1,208	1,143	-65 (-5.3%)	-9
合計	3,027	2,886	-141 (-4.7%)	-74 (-2.4%)	11,654	10,809	-845 (-7.2%)	-273 (-2.3%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

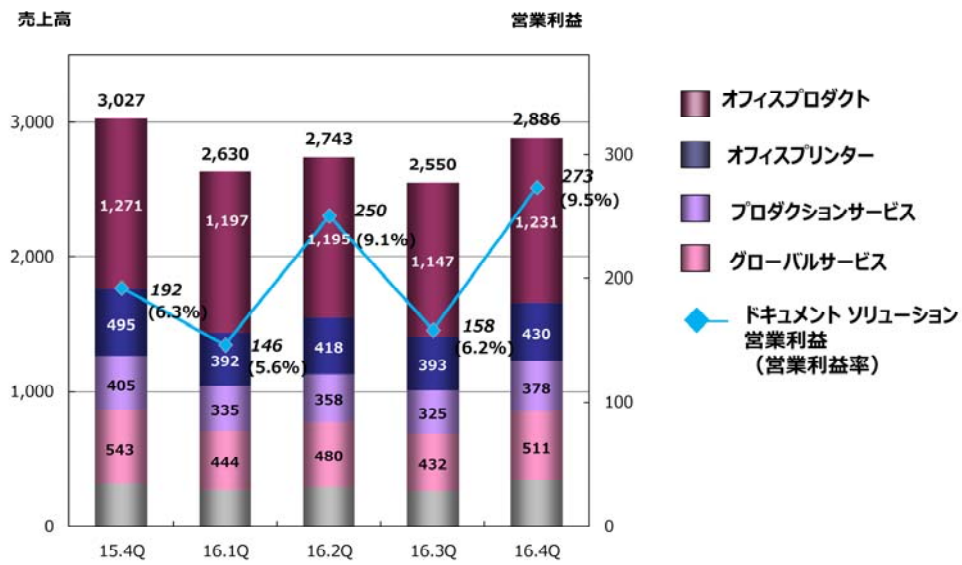
営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く	修正 2015年度	2016年度	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	192 [6.3%]	273 [9.5%]	81 (+42.2%)	67 (+34.9%)	813 [7.0%]	827 [7.6%]	14 (+1.7%)	67 (+8.2%)

※2015年度、2016年度4Q決算は監査中です。 24

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



※2015年度、2016年度四半期決算は監査中です。 25

<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

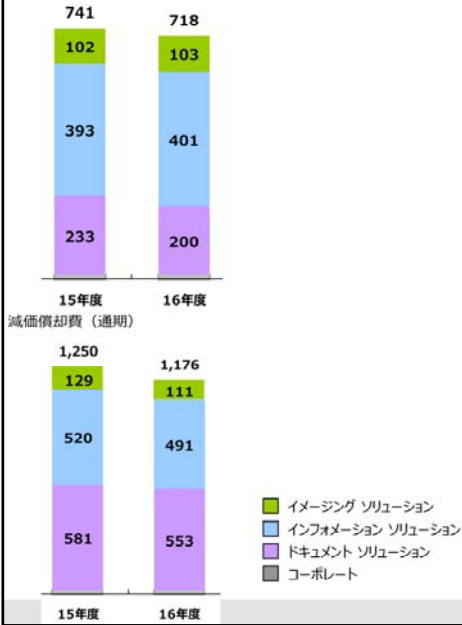
	修正 2015年度		2016年度		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	40.0%	9,837	41.5%	9,627	-210	(-2.1%)
米州	20.4%	5,004	19.4%	4,504	-500	(-10.0%)
欧州	11.5%	2,840	11.8%	2,739	-101	(-3.6%)
内、中国	11.4%	2,807	11.8%	2,745	-62	(-2.2%)
アジア他	28.1%	6,923	27.3%	6,352	-571	(-8.2%)
海外	60.0%	14,767	58.5%	13,595	-1,172	(-7.9%)
合計	100.0%	24,604	100.0%	23,222	-1,382	(-5.6%)

※2015年度決算は監査中です。 26

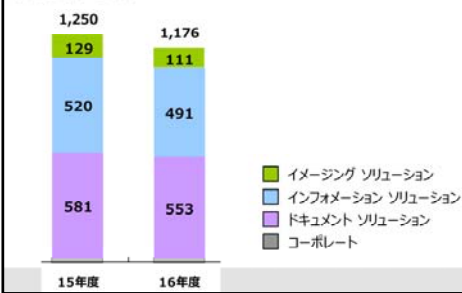
&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 設備投資、減価償却費

設備投資（通期）



減価償却費（通期）



■ イメーシングソリューション  
 ■ インフォメーションソリューション  
 ■ ドキュメントソリューション  
 ■ コーポレート

（単位：億円）

年度	通期		
	修正 2015	2016	2017 (予想)
イメーシング	102	103	
インフォメーション	393	401	
ドキュメント	233	200	
コーポレート	13	14	
設備投資 ※	741	718	880
イメーシング	129	111	
インフォメーション	520	491	
ドキュメント	581	553	
コーポレート	20	21	
減価償却費	1,250	1,176	1,100
有形固定資産の 減価償却費 ※	658	589	

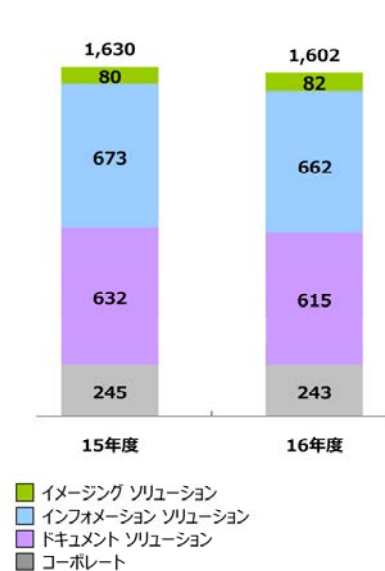
※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

※2015年度決算は監査中です。 27

<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（通期）



(単位：億円)

年度	通期		
	修正 2015	2016	2017 (予想)
イメーシング	80	82	
インフォメーション	673	662	
ドキュメント	632	615	
コーポレート	245	243	
研究開発費	1,630	1,602	1,660
<売上高比>	6.6%	6.9%	6.7%
販売費及び 一般管理費	6,305	5,981	
<売上高比>	25.6%	25.8%	

※2015年度決算は監査中です。 28

<当スライドは配付資料です>

## 為替、原材料価格、人員

### 為替

(単位：円)

	2015年度					2016年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	121	122	122	115	120	108	102	110	114	108
ユーロ	134	136	133	128	133	122	114	118	121	119

### 原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2015年度					2016年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	64	60	58	54	60	57	63	59	63	59

### 人員

(単位：人)

	2016.3末	2016.6末	2016.9末	2016.12末	2017.3末
連結	78,150	78,882	78,976	78,665	78,501

<当スライドは配付資料です>

## 2015年度決算の修正

(単位：億円)

	修正前 2015年度	修正 2015年度	対修正前 2015年度
売上高	24,916 100.0%	24,604 100.0%	-312 -1.3%
営業利益	1,912 7.7%	1,740 7.1%	-172 -9.0%
税金等調整前 当期純利益	1,945 7.8%	1,756 7.1%	-189 -9.7%
当社株主帰属 当期純利益	1,233 4.9%	1,114 4.5%	-119 -9.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	264.87円	239.37円	-25.50円
ROE	5.8%	5.3%	-0.5%
為替 : 米ドル	120円	120円	
: ユーロ	133円	133円	

※2015年度決算は監査中です。 30

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 連結貸借対照表 2015年度決算の修正

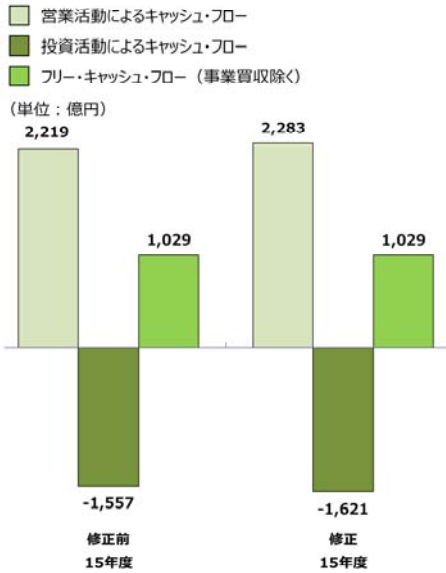
(単位：億円)							
	修正前 15年度末	修正 15年度末	対修正前 15年度末		修正前 15年度末	修正 15年度末	対修正前 15年度末
現金 及び現金同等物	6,009	6,009	0	長短社債 及び借入金	3,657	3,657	0
受取債権	6,639	6,436	-203	支払債務	2,593	2,571	-22
棚卸資産	3,529	3,492	-37	その他流動 固定負債	4,548	4,572	24
その他流動資産	1,716	1,726	10	負債計	10,798	10,800	2
流動資産計	17,893	17,663	-230	株主資本計	20,545	20,148	-397
有形固定資産	5,341	5,326	-15	非支配持分	2,294	2,172	-122
営業権	5,069	5,069	0	純資産計	22,839	22,320	-519
投資有価証券 その他資産	5,334	5,062	-272	負債・純資産 合計	33,637	33,120	-517
固定資産計	15,744	15,457	-287				
資産合計	33,637	33,120	-517				
				(単位：円)			
				期末日 為替レート	修正前 15年度末	修正 15年度末	
				米ドル	113	113	
				ユーロ	128	128	

※修正2015年度末残高には、富士ゼロックス海外販売子会社の不適切会計の修正と、その他の修正項目が反映されています。 31

<当スライドは配付資料です>



キャッシュ・フロー 2015年度決算の修正



(単位：億円)

	修正前 15年度	修正 15年度	対修正前 15年度
当期純利益	1,417	1,269	-148
減価償却費	1,214	1,250	36
受取債権の増(-)減(+)	-163	-186	-23
棚卸資産の増(-)減(+)	72	69	-3
営業債務の増(+)-減(-)	-20	17	37
その他	-301	-136	165
営業活動によるC F	2,219	2,283	64
設備投資	-638	-638	0
ソフトウェアの購入	-223	-223	0
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	142	142	0
事業買収	-367	-367	0
その他	-471	-535	-64
投資活動によるC F	-1,557	-1,621	-64
フリー・キャッシュ・フロー	662	662	0
事業買収除くフリー・キャッシュ・フロー	1,029	1,029	0

※2015年度決算は監査中です。 32

<当スライドは配付資料です>

## 2017年度 連結業績予想 (2017年6月12日時点)

(単位: 億円)

	2016年度	2017年度 上期	2017年度 下期	2017年度	対前年度
売上高	23,222 100%	11,800 100%	12,800 100%	24,600 100%	1,378 +5.9%
営業利益	1,723 7.4%	640 5.4%	1,210 9.5%	1,850 7.5%	127 +7.4%
税金等調整前 当期純利益	1,948 8.4%	845 7.2%	1,155 9.0%	2,000 8.1%	52 +2.7%
当社株主帰属 当期純利益	1,315 5.7%	500 4.2%	750 5.9%	1,250 5.1%	-65 -4.9%

33

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## パイプライン (2017年6月12日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み	2014年3月承認 (アビガン錠 <sup>®</sup> )
			米国	Ph III実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study(ADCS)と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学iPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	新規フルオロクワイド系抗菌薬	経口	日本	Ph III実施中	
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬 <small>バイオ</small>	注射	日本	Ph III実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I 終了	
			米国	Ph II 実施中	MDアンダーソンがんセンター (米国) と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発膵がん/卵巣がん治療薬	注射	米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター (米国) と臨床開発推進中
			欧/日	Ph I 準備中	
FF-21101	進行・再発非小細胞肺がん/膵がん治療薬 (Armed抗体) <small>バイオ</small>	注射	米国	Ph I 実施中	MDアンダーソンがんセンター (米国) と臨床開発推進中
			欧/日	Ph I 準備中	
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)		日本	Ph II 実施中	
FF-10101	再発・難治性急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I 準備中	
FF-10102	自己免疫疾患治療薬	経口	米/欧/日	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フイルムバイオロジクス (FKB) のFKB327 (アタリムマブバイオシミラー) は、欧州申請中。FKBとアストラゼネカ社の JV のFKB238 (ベバシマブバイオシミラー) は、米国、欧州、その他でPh III実施中。

34

<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### 富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

### 富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2016

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual\\_reports/2016/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2016/index.html)

### IRイベント資料

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_events/business\\_presentations/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html)

#### ・事業説明会資料

- 2016年 5月 ドキュメント事業説明会
- 2016年 12月 医薬品・再生医療事業説明会
- 2017年 3月 エレクトロニクスマテリアルズ (EM) 事業説明会

### 富士フィルムってどんな会社？

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual\\_guidance/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual_guidance/index.html)

35

<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>